


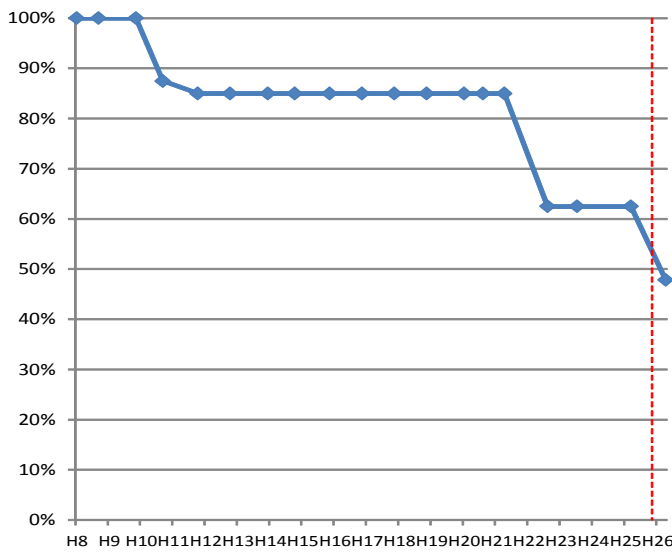


樹種名	ホオノキ	
科 目	モクレン科	
学 名	<i>Magnolia obovata</i>	
分 布	日本全土、国外では中国の山地に分布する。	
樹木特性	<p>陽樹であり適潤で地味肥沃な深層土を好む。谷あいまたはこれに続く斜面、中腹の緩傾斜地に自生し成長は早い。</p> <p>伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約20 cm前後で萌芽本数は30本以上である。</p> <p>生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が100年以上と推定され、埋土種子は休眠し、寿命も長い。</p>	
用 途	公園樹、街路樹、建築・器具・楽器・彫刻・船舶材に、樹皮は薬用に利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	245本/0.06ha (約3,500本/ha)	
特 徴	<p>【樹形】</p> <p>ホオノキ(朴の木)はモクレン科の落葉高木であり、樹高30m、直径1m以上になるものもある。</p> <p>樹皮は灰白色、きめが細かく、裂け目を生じない。葉は大きく、長さ20 cm以上、時に40 cmにもなり、葉の大きさではトチノキに並ぶ。葉柄は3~4cmと短い。葉の形は倒卵状楕円形、やや白っぽい明るい緑で、裏面は白い粉を吹く。植物の葉、茎の一つの節に1枚ずつ方向をたがえてつき、枝先に多数が束のようになって生じ、輪生状に見える。花は白色または淡黄色で、大型で大人の掌に余る輪生状の葉の真ん中から顔を出し、真上に向かって6月ごろ咲き、芳香がある。葉は芳香があり、殺菌作用があるため食材を包んで、朴葉寿司、朴葉餅などに使われる。</p>	   
試験地での様子	普通苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。植栽から18年経過した現在の平均樹高は9m程度にまで成長している。幹の通直性は高い。	
被 害	植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。 (延べ駆除本数：4本)	

## ホオノキ 現存率



## 【現存率】

植栽後よりコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害により枯死が発生している。

平成 22 年にも枯死が発生している。

林内の照度調整を図るため、平成 21 年、22 年、24 年度にわたり 3 回の本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 47.8%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## 【根元・胸高直径】

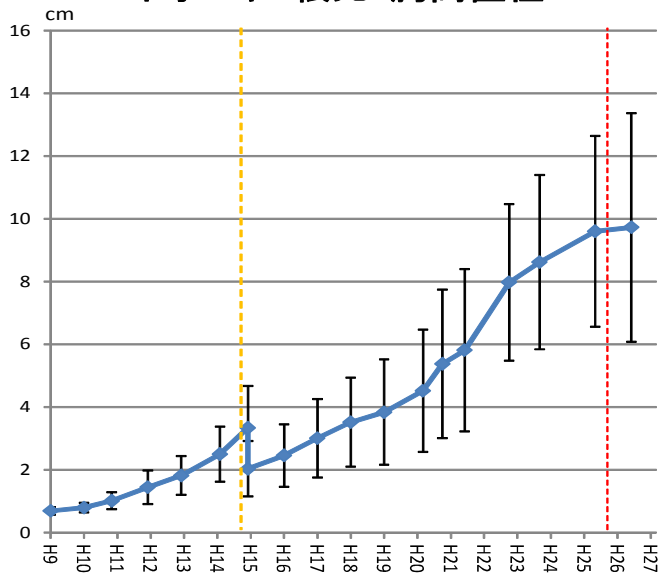
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 9.73 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

## ホオノキ 根元・胸高直径



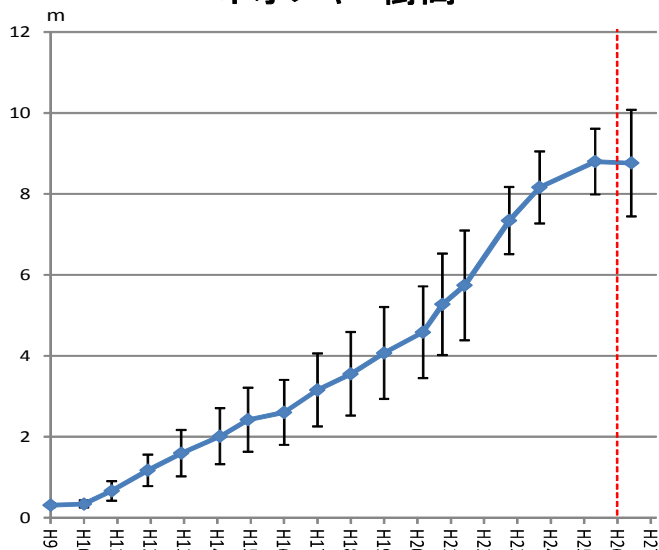
## 【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 8.77mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

## ホオノキ 樹高



## 《プチ情報》

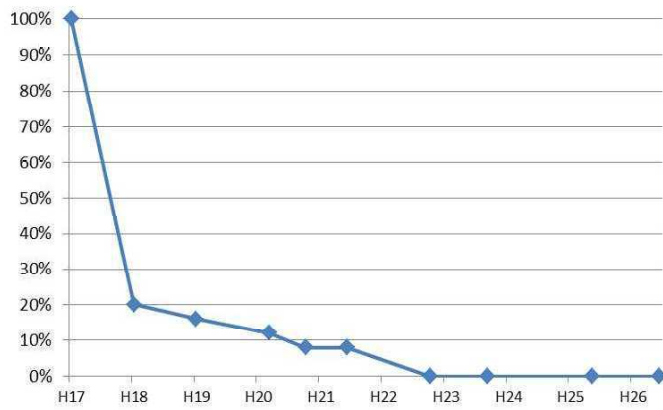
材質は良質の散孔材で軽くて軟らかく緻密である。耐朽・保存性は低いが切削、加工、割裂、乾燥は容易で表面仕上げも良好で耐火性もある。

本種は強い他感作用（アレロパシー）を示すことが知られている。本種の樹冠下では、他の植物が生えることは少ない。これは、落葉や根などから分泌される他感物質により種子発芽や、発芽した植物の生育が強く抑制されるためである。そのため、自生地の樹冠下では下草が少なく落葉の堆積が目立つことが知られている。



樹種名	ホルトノキ（別名：モガシ）	
科目	ホルトノキ科	
学名	<i>Elaeocarpus sylvestris</i> v. <i>ellipticus</i>	
分布	本州(千葉県以西)、淡路島、四国、九州、沖縄に自生する。国外では、台湾、インドシナなどに分布する	
樹木特性	常緑高木であり、本州以西の西南日本で照葉樹林の高木層構成樹として重要とされ、各地の社寺林の中で巨木が見られ、まれに沿海地に自生する。 古い葉は落ちる前に紅葉し、常に一部の葉が紅葉しているのが見られる。	
用途	街路樹や公園の緑化木として利用される。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	25本/0.008ha (約3,000本/ha)	
特徴	<p>【樹形】 照葉樹林に生え、樹高は10m程になり、大きいものでは30mになるものもある。 樹皮は、灰褐色で滑らかであり、葉は互生し、枝先に集まる。葉身は倒披針形～長楕円状披針形でやや革質であり、縁には鈍い鋸歯がある。 初夏に古い葉が紅葉する。木の全体的質感は、ヤマモモやユズリハなどと似ているが、この紅葉があることで区別できる。 緑の葉に混ざるこの紅色を、模様(紋)に見立て「紋ガシ」「模様ガシ」と呼んだのがつまり、モガシと言う別名が生まれた。 花期は7～8月頃に総状花序が腋生し、白い小さな花を多数付ける。初夏に花が咲き、横に伸びた花茎に穂状に付く、個々の花は釣り鐘状で白い。 果実は核果で、長卵状楕円形、熟すと藍黒色になる。 平賀源内は、この実から当時貴重なオリーブ油(ポルトガル油)が採れると思ったらしい。そう言えば、似ている。 ホルトノキの名前の由来については、ポルトガルの木という意味で本来はオリーブの木を指すのだが、誤って本種の名前になってしまったという有名なエピソードがある。これは、江戸時代に薬用に使われていたホルト油(オリーブ油のこと、ポルトガル油ともいう)の採れる木と誤解されたためといわれている。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽直後から原因不明の枯死が発生し、6年後には全て枯死した。このことから、当試験地内には現存する樹木はない。	
被害	植栽直後から原因不明の枯死が発生した。その他のコウモリガやカミキリムシ類やシカ被害については確認できない。	

### ホルトノキ 現存率



**【現存率】**

植栽時の翌年から大部分が枯死した。6年を経過した時点で全ての樹木が枯死した。

